

令和6年度 自転車乗車用ヘルメット着用推進シンポジウムについて

令和6年11月27日（水）、令和6年度のモデル校6校の参加により、自転車乗車用ヘルメット着用推進シンポジウムをリモート開催した。本シンポジウムでは、各学校の取組を紹介し合うとともに、今後のヘルメット着用推進に向けて生徒間で活発な協議が行われた。概要は以下のとおりである。

<シンポジウムの主な概要>

1 県内高校生の自転車交通事故の状況について説明（県教育委員会から）

- ・ 高校生の交通事故のうち、自転車乗車中の事故は約7割
（令和5年千葉県警察本部統計資料より）
- ・ 自転車乗車中死者の約6割が頭部に致命傷を負っている
（千葉県警察ホームページ掲載資料より）
- ・ 県立高校から県教育委員会に報告された交通事故一報件数 65件
うち自転車乗車中の事故 55件
うち重傷事故の件数 11件
（令和6年11月19日時点）

※重傷事故11件のうち、ヘルメット着用は1件のみ

⇒本事故に遭った生徒は肋骨や手首の骨折などの重傷を負ったものの、ヘルメットの着用により、頭部の損傷を免れ、一命をとりとめた

2 各モデル校の取組発表

① 東金商業高等学校

【主な取組】

- ・ 生徒会（交通安全委員）が東金警察署と協力し、東金駅でヘルメット着用を呼びかけ
- ・ 全校生徒のアンケートをもとに、課題を改善するための取組
取組1 通気性やデザイン性を考慮したヘルメットの紹介
取組2 髪型を整えるために、昇降口に姿見を設置
- ・ 生徒会（交通安全委員）が全校集会で交通安全やヘルメット着用を呼びかけ

<その他>

- ・ 東金警察署の出陣式に参加予定

【ヘルメットの着用率】

R6年5月：6.4% ⇒ R6年10月：7.6%

【今後について】

- ・ 今後、ヘルメットを着用する生徒が増えた場合、ヘルメット置き場を検討していく

② 流山おおたかの森高等学校

【主な取組】

- ・ 生徒安全管理委員会がポスターの募集や生徒向けアンケートを実施
- ・ 生徒安全管理委員会が生徒向けアンケートで判明した課題（ヘルメットがダサい）を改善するヘルメット（帽子型のヘルメット）やヘルメット内が蒸れない方法を紹介
- ・ 万が一の事故に備えて、貸し出し用ヘルメットに学校名と管理番号を明記。また、規律委員会が、ヘルメットを気軽に借りることができる簡易システム（貸し出しカード）を考案
- ・ 新聞委員会がヘルメット新聞を発行
- ・ 放送委員会が昼休みの校内放送でヘルメット着用を呼びかけ
- ・ 生徒会が昇降口や各クラスでヘルメット着用を呼びかけ

<その他>

- ・ 生徒会長が、自分のクラスに積極的に呼びかけ、着用者を10人以上増加させた

【ヘルメットの着用率】

R6年5月：1.6% ⇒ R6年10月：4.6%

【今後について】

- ・ さらに取組を進め、11月以降も着用率が向上できると考えている

③ 船橋北高等学校

【主な取組】

- ・ 全校生徒へのアンケート実施
- ・ 交通安全教育講演会の実施
- ・ 生徒会が船橋東警察署と協力して交通安全リーフレットや防犯グッズを配付
- ・ 生徒会が昼の放送でヘルメット着用を呼びかけ

【ヘルメットの着用率】

R6年5月：0.2% ⇒ R6年10月：4.6%

【今後について】

- ・ 着用したくなるヘルメットのデザインを調べ、ポスターにして掲示予定
- ・ ヘルメット着用は義務化しないと着用率の向上は困難と考える

④ 京葉高等学校

【主な取組】

- ・ ヘルメット及び自転車の交通安全標語グランプリを開催
- ・ ヘルメット貸し出し希望者へアンケートを実施
- ・ ヘルメット着用推進動画の作成及び鑑賞

【ヘルメットの着用率】

R6年5月：1.3% ⇒ R6年10月：5.7%

【今後について】

- ・ 令和6年度内にヘルメット着用率7%を目指す

⑤ 千葉北高等学校

【主な取組】

- ・ ヘルメットの配付について説明及び貸し出し
- ・ 生徒会が全校生徒へアンケートを実施し、結果をもとに取組内容を検討（校則化、ヘルメットを置く場所、ヘルメットの所持確認）

<その他>

- ・ 校内貸し出し用ヘルメット（40個）をすべて貸与している

【ヘルメットの着用率】

R6年5月：2.0% ⇒ R6年10月：6.9%

【今後について】

- ・ 全校生徒へのアンケート結果を開示し、更なる課題を改良し、生徒から出た案をできる限り実行していく

⑥ 匝瑳高等学校

【主な取組】

- ・ 生徒会が登下校時、学校近くでヘルメット着用を呼びかけ
- ・ 生徒会がヘルメットの重要性について校内放送
- ・ 警察の方による交通安全についての講演会
- ・ 教職員による自転車通学者のヘルメット確認
- ・ 生徒が作成したポスターなどの掲示物による呼びかけ
- ・ ヘルメットの貸し出し
- ・ スケアード・ストレイト交通安全教室の実施

【ヘルメットの着用率】

R6年5月：24.5% ⇒ R6年10月：29.1%

【今後について】

- ・ 今後も生徒が主体となり、ヘルメット着用の重要性や交通安全の啓発に取り組む予定

3 質疑・応答

流山おおたかの森 : 京葉高校で実施した標語グランプリについて詳しく教えてほしい。

京 葉 : 国語の授業で、全校生徒が「ヘルメット・自転車の交通安全」の標語を作成した。先生方や生徒会で選考し、よい作品を全校集会で表彰した。

流山おおたかの森 : 船橋北高校で配付したリーフレットや防犯グッズについて詳しく教えてほしい。

船 橋 北 : 船橋東警察署からいただいたリーフレットと防犯グッズ（ストラップや反射材）を生徒会役員が昇降口で配付した。

千 葉 北 : 匝瑳高校のヘルメットの着用率が5月時点で、すでに他校に比べて高いのはなぜか。

匝 瑳 : 入学候補者説明会や入学式で保護者、生徒にヘルメットの大切さを呼びかけたり、昨年度から日常的に朝の放送で呼びかけたりしたためだと考える。

千 葉 北 : 匝瑳高校では、ヘルメットの置き場をどのようにしているのか。

匝 瑳 : 置き場は決めておらず、生徒が自分で部室や教室のロッカー等で管理している。

県 教 委 : 東金商業高校では、昇降口に姿見を置いた後、生徒の反応はどう変わったのか。

東 金 商 業 : 設置後、姿見を使用する生徒は多く、髪型を気にする人が多いことがわかった。今後、この取組をヘルメットの着用率向上につなげていきたい。

匝 瑳 : 京葉高校が実施した標語グランプリやヘルメット着用推進動画の作成を自分の学校でも取り組みたい。

京 葉 : 匝瑳高校で、スケアード・ストレイトを実施したことが素晴らしいと思った。様々な人から話を聞くよりも、事故の状況を再現した場面を実際に見た方が、生徒には強く印象が残り、ヘルメットの必要性を感じることができ、着用率向上につながると思った。京葉高校でも実施を検討してほしい。

東 金 商 業 : 匝瑳高校では、ヘルメットの着用の大切さを校内放送で伝えているとのことだが、どのような内容と呼びかけているのか。

匝 瑳 : 例として、マナーウィークの時に放送した内容の原稿を紹介する。

「みなさんおはようございます。10月17日、マナーアップウィーク。朝の放送を始めます。担当は生徒会本部です。皆さんは自転車に乗る時ヘルメットの着用をしていますか。ヘルメットを着用している人と着用をしていない人、両者ともにいるように感じます。また、登校する時は着用しているけれど、私生活では着用していないという人もいませんか？学校生活でも、私生活でも、もしもの時に自分の命を守るためにも、自転車に乗る時にはヘルメットを着用しましょう。」

4 協議

流山おおたかの森 : 本校では規律委員会で、ヘルメット着用の義務化について議論した。高校生の時だけ規則として義務化しても、卒業後、社会に出たときに、自転車乗車時にヘルメットを着用しなくなる可能性があることを考え、流山おおたかの森高校では、義務化ではなく、高校生にいかに関心を持ってヘルメット着用の必要性を感じてもらい、納得した上で自主的に着用してもらうことが大事だという考えにまとまった。そこで、生徒会では、ヘルメット着用を向上させるため、日常的に放送や新聞等で、生徒に対して必要性を呼びかけてきた。これらの取組により、ヘルメットの着用数だけでなく、生徒の交通ルールの遵守や交通マナーの意識が向上し、昨年度に比べて自転車通学者の事故発生件数が減少している。今後もヘルメットの着用を義務化して終わりではなく、自転車事故に関する理解を広め、

着用する必要性を感じてもらい、自主的に着用する人を増やしたいと考えている。そこで、本シンポジウムでは、生徒に自主的に着用してもらえる取組について話し合いたい。

京 葉 : 本校で、ヘルメット着用の義務化は進んでいない。個人的には義務化に賛成だが、ヘルメットを義務化すると、個人の自由が制限されてしまったり、経済的な負担に なったりすることがあるため、慎重に検討すべきと考えている。

千 葉 北 : 流山おおたかの森高校から、高校生だけが期間限定で義務化しても、社会に出た際に着用しない人が増えてしまうのではないかという意見があった。その意見を聞き 自主的に着用するように取り組むことは大切だと思った。しかし、一方で、人間が物事を習慣化させるには、約3か月かかると聞いたことがある。千葉北高校では、ヘルメットを3か月間だけ義務化することで、着用が習慣化し、義務化期間が終わった後も着用する人が少しでも増えるのではないかと考えている。ただ、義務化を開始するまでに、全員がヘルメットを用意できるかという課題がある。

流山おおたかの森 : 千葉北高校から、3か月の期間だけ義務化してみるという案があったが、多くの高校生は中学生の時に、学校の規則として自転車通学時にヘルメットを着用していたと思う。しかし、中学生から高校生になると、自転車通学者でもヘルメットを着用しない人が多い。そのことを考えると、習慣化よりも、もっと自主的に着用することを伝え、広める方法を考える必要があると思う。

船 橋 北 : 高校生が自主的に着用するためには、ヘルメットのデザインが大切だと思う。

千 葉 北 : 私は現在、通学時にヘルメットを着用している。ヘルメットを着用する理由は、まず事故に遭った際にヘルメットを着用することで死亡するリスクを減らせるからである。これから先、やりたいことがたくさんあり、16

歳で死にたくない。もう一つの理由は、自分が事故に遭ったり、死んでしまったりした時に、自分の大切な人達が悲しんだりする等、まわりの人に、どのくらい迷惑をかけるのか想像できないからである。事故に遭う前に、自分ができることは何かと考えた時に、最低限の交通ルールを守ること、そしてヘルメットを着用することが自分の義務だと考えている。

京 葉 : 私は、これまでにヘルメット着用の大切さを感じた経験がある。部活動の帰り道、自転車でスピードを出して走行中に、急ブレーキをかけたところ、その反動で自転車が1回転し、転倒してしまった。その時、左手に重傷を負ったものの、ヘルメットを着用していたことで、頭部損傷などの重大な事故にならずに済んだ。この経験から、ヘルメットは、もしもの時のために着用するものだということを実感している。

県 教 委 : 多くの生徒にヘルメットの着用の実感させるためには、どのような方法があるか。

千 葉 北 : 自分が事故に遭ったことを想像させ、誰がどれだけ悲しむのか文面に書いてもらうなどの取組はどうか。また、「もしあなたが自転車の交通事故で亡くなってしまったら・・・」と投げかけるようなポスターを作成、掲示するなどの取組をすることで、事故に遭う前にヘルメットを着用しようと思う人が増えるのではないかと考える。

5 シンポジウムに参加しての感想

東 金 商 業 : 東金商業高校でも、様々な取組を行ってきたが、他校の取組を聞いて、今後の取組の参考になった。まずは、京葉高校で行われた「ヘルメット・自転車の交通安全」標語を取り入れたい。

流山おおたかの森 : (ヘルメットを着用して登場) 本日のシンポジウムに参加し、他校の考え方を聞いて参考になった。さて、ここで、実際にヘルメットを着用し、髪型がくずれないか試そうと思う。(着用したヘルメットをはずす。)

このようにヘルメットを着用しても、髪型が崩れることはないので、このことを伝えていきたい。また、義務化の話も出たが、やはり高校生が自主的に着用するようになる環境づくりができたらいいと思った。

京 葉 :本校でも、ヘルメット着用の必要性を実感させるために、スタントマンによる交通事故の再現をしてくれるスケアード・ストレイトを実施したいと思った。
最後に県教育委員会に質問がある。中学校ではヘルメット着用を義務化しているが、県教育委員会が高等学校に対して、ヘルメット着用を義務化する考えはあるのか。

県 教 委 : 現段階では、県教育委員会として県立高等学校一律に義務化するのではなく、各校の判断で進めてもらっている。県内の多くの中学校は、ヘルメット着用を義務化されているが、県教育委員会が中学生の義務化を決めているのではなく、各中学校の判断で行っている。

船 橋 北 : 流山おおたかの森高校が取り組んでいるヘルメットにナンバーを記載する取組を参考にしたい。その他にも、他校の取組を参考にし、今後取り組んでいきたい。

匝 瑳 : 昇降口への姿見の設置やヘルメット着用推進動画の作成は、本校の生徒会でも取り組んでいきたい。また、今後は、生徒会本部だけでなく、様々な委員会と協力してヘルメット着用の取組を推進していきたい。

千 葉 北 : 本校では他校に比べて、生徒に周知する機会が少なかったもので、ポスターや標語等をつくることなど、ヘルメット着用を身近に感じられるような取組を実施していきたい。